

3章

キャンパスマスタープランに対する期待と評価検証

平成16(2004)年の策定作業時から令和5(2023)年現在までの、キャンパスマスタープランに関連する各種調査等の概略結果について順を追って解説(3-1、3-2節)し、令和5年現在の意見集約(3-3節)結果を整理した。これと併せ、これまでの整備成果との関係を概観・検証したうえで、キャンパスマスタープランへの期待と評価検証をまとめる(3-4節)。

3-1. キャンパスマスタープラン策定作業時の調査・意見集約

キャンパスマスタープランを作成立案するにあたって、2004(平成16)年に豊中・吹田地区の構成員や地域住民を対象としたアンケート調査と、各キャンパスの施設マネジメントに関する各部局代表に対するヒアリング調査を行った。10年以上経過した現在でも、その調査結果は重要な意見を含んでいる。その意見をもとにワーキングメンバーで議論したことがマスタープランの中核をなしている。

さらに平成19年の大阪外国語大学の統合を受けて、2008(平成20)年にも箕面キャンパスマスタープランを策定するためのアンケート調査等を、箕面地区の構成員と近隣住民を対象に行っている。

(1) 豊中・吹田キャンパスアンケート調査(2004(平成16)年度)

<調査概要>

2004(平成16)年10～11月にハガキ配布とインターネットによるアンケートを実施した。回答数は364、うち大学構成員は80%、その他20%であり、当時の大学構成員の約1.4%に相当する。回答者の活動地区の割合は、吹田31%、豊中48%、両方が10%であり、吹田地区の方が、教職員の回答の割合が豊中地区よりも多かった。

<調査結果概要>

a. メンテナンス・マネジメントへの要求と期待

- 1) 食堂、トイレの充実、滞留スペースの確保、外部空間の充実、駐車駐輪場の整備、清掃、植栽などの維持管理に関

する意見が多く、従来はメインと考えてこなかったジャンルであった。

- 2) 建物の老朽化に対する不満よりも維持管理の不十分なことによる汚さや、ゴミ処理に対する苦情を指摘する意見が見られた。

b. キャンパス計画への期待の全体的な傾向

- 1) 「キャンパスであなたが最もくつろげる場所」に対する回答で、「職場（研究室等）」、「豊中附属図書館（現総合図書館）」が多くを占めたのは、それ以外に「くつろげる場所」が本学にいかにも不足しているかを物語っている。
- 2) 「阪大のシンボルといえば何をイメージしますか」に対する回答で、「イチョウ」という回答が他を圧して占めたのは、阪大にシンボルとなるような魅力的な建物がないという事実を示している。なお3位であったイ号館は2011（平成23）年に、大阪学生会館として生まれ変わり、周辺広場の整備と合わせて、より強いシンボル性を獲得している。
- 3) 「阪大キャンパスを魅力的にするためには何が必要だと思いますか」への回答では、「きれいでおしゃれな飲食店」が、「シンボリックな建物」、「芝生の大きな広場」を引き離しており、身近で、楽しく、現実性のある環境へのベーシックな欲求を示している。
- 4) 「その他阪大について日頃感じていることについて具体的に書いてください」への回答の「食堂の充実が必要」、「憩える施設・場の整備」にも、キャンパスへの最も基本的な期待が現れている。
- 5) 「あなたのお気に入りの場所・風景はどこですか」に対する回答では「共通教育前広場」、「イ号館（現 大阪学生会館）からの眺め」「待兼池周辺」と意見が分かれた。
- 6) 全体的に見て魅力のある場所、お気に入りの場所は的確に捉えられている。無いという否定的な意見も多いが、ポテンシャルのある場所はそれなりによく認識されていると判断できる。そのポテンシャルを活かす工夫が必要で、そのためにはハード整備だけではなくソフト対策も重要である。
- 7) 魅力のある場所、お気に入りの場所は、キャンパス全体で見れば「図」として浮き上がって見える部分である。これに対して、通常の講義・研究棟など、「地」としてのきめ細かい部分への対応の重要性を指摘する意見も多い。「自然を活かすこと」、「その状態を良好に保つべきこと」、「公共・共用部分のメンテナンス・清掃等を適切にすること」などの意見があり、環境整備上は極めて重要な指摘である。

(2) 豊中・吹田各キャンパスマスタープランワーキングでの意見(2004(平成16)年度)

a. 豊中地区

- 1) 大学として何を望むかという議論が大切である。
- 2) 歩行者が裏道のような汚いイメージのある環境(柴原口～基礎工裏)を歩いている。
- 3) 学生が集まる屋外の場所が少ない。建物中心の計画が先行しており広場計画が欠けている。
- 4) ここには建物を建てないで空地を残すという計画が大切ではないか。
- 5) 施設の整備計画と同様に施設の改築計画も大切ではないか。これ以上緑地、駐車場のスペースを無くしてよいのか。
- 6) 会議場、ゲストハウスの必要性、旧医短跡地の活用、歴史的建造物の保全と活用
- 7) 運動施設の拡充
- 8) コミュニティ・キャンパスの実現-「ユニバーシティ・ミュージアム」(総合学術博物館の活用)
- 9) 両キャンパスの「自然環境の開放」
- 10) 知的財産(図書や学術標本など)の保存の重要性

b. 吹田地区

- 1) 外部からのアイデア募集、コンペの実施等が考えられないか、またマスコミも巻き込んで作成(できるのが理想的である)。
- 2) 建物計画よりもキャンパスにおける道路、駐車場、駐輪場、広場、植栽、および建物と建物を繋ぐ空間をどう構築するのが大切である。
- 3) 学生、教職員の健康増進を図るような施設(ジム等)が欲しい。
- 4) 大学の顔となるようなものが必要であり、現在の阪大にはそのような施設がない。
- 5) 学生の溜まり場、学生が長く大学に滞在するような場の整備が必要である。また夜間に利用できる施設も大切。利用にあたっては学生のモラル教育も大切となる。
- 6) 理念目標の設定はよいことであり、これまでの計画に比べ次元が高くなった。
- 7) ばらばらな施設整備にならないように、デザインの統一を図ることが大切である。
- 8) 犬飼池周辺を公園あるいは憩いの広場にしたい。
- 9) 豊中キャンパス-千里中央-吹田キャンパス-JR茨木間の回遊バス(があると便利だと思われる)。
- 10) 民博との協調が必要である。
- 11) 阪大病院前を地域住民が徒歩で進入可能な交流空間、ピオトープ回遊庭園にする。阪大が駅ビル機能をもつ建物を造る方がよい。

(3) キャンパスマスタープランの中核とすべき考え方(2004(平成16)年度)

以上の調査・ヒアリングを元に、2004(平成16)年度のキャンパスマスタープラン策定作業では、下記の5項目を重視することとした。これは2023(令和5)年現在でも大きくは変わっていない。

A. 長期的指針と短期的にすぐに取り組む部分の明確化

土地利用計画など長期的に取り組む部分と、すぐに着手できるもの、必要最低限として考えられるべきものを明示する。土地利用計画は、緑地、道路、駐車場・駐輪場を有効に整備する方針を明示することで、いわば乱開発を未然に防ぐ。

B. キャンパスにおける魅力の核、シンボリック空間の形成

シンボリック空間は、下記の4要素が重要であり、「くつろげる場所」、「歴史・伝統・研究・先進性の表現」、「おしゃれな建物」、「芝生広場」等と一体的に、キャンパスの全体構成に則して考える。

- ① 人の活動との適合
- ② 意味性(歴史性、記念性やメッセージ性)
- ③ 形態の個性(色、形、周囲の風景とのコントラスト)
- ④ 空間の広がり

C. 交通計画の方針の明確化

(1) すべての人が安全に快適に移動できる空間形成

◇施設整備

- ・自転車駐輪場の分散配置
- ・自動車駐車場の周辺配置(歩行者、自転車と自動車との交錯回避)
- ・空間の機能に合わせた道路空間の再配分
- ・バリアフリー化された道路と施設へのアクセス

◇啓発・教育:自転車マナーの周知徹底等

(2) 利便性の高い環境づくり

◇キャンパス間連絡バスのサービス向上

◇キャンパス内の移動、自転車の利用

D. 賑わいや交流の核の形成

- ・ レストランやカフェ、コンビニ、書店などに民間企業を誘致し、福利厚生面を充実させ周辺地域の住民も気軽に訪れるようにする。
- ・ 書店には専門書を充実させ、座ってお茶を飲みながら本を読めるようにしたり、セミナー室等を併設して公開講座を開くなどで、地域に開かれた大学をアピールする。

E. 自然資源を活かした魅力の形成

◇活かすことのできる緑空間の把握

- ・ 骨格となる緑地(街路樹、路傍の低木など)にはシンボリックな性格を持たせる。
- ・ 法面緑地、その他の緑地についても整備のガイドラインを作る。

3-2. その後の関連する各種調査

3-2-1. 交通安全アンケート（2010（平成22）年度）

キャンパス内の交通安全対策を有効に実施するため、危険箇所、要因、通勤通学に用いる交通機関、概略居住地域を問うことと同時に、バスロータリー+集約駐輪場計画案(当時案、現在は凍結)、ならびに自転車有料登録制(当時案、その後凍結)への賛否を問う、ハガキ配布形式のアンケートを行った。

合計回答489通(豊中152、吹田296、箕面41)。なお、豊中・吹田では概ね有効なサンプルが得られたが、回答が教職員に偏っていること、配布方法に問題があり、特に箕面では学生の回答が0%であったことは注意を要する。以下に得られた意見・知見の概略をまとめる。なお5章でも、交通環境に関してキャンパス内各所の危険要因を指摘する意見をまとめており、本節では概要紹介にとどめる。

- a. 各キャンパスの危険箇所のプロットと危険要因のまとめが得られた(5-1節参照)。
- b. 自転車入構規制案について、利便性低下(通学、学内移動)に対する反発が極めて大きい。自転車有料登録制案に対する反発も大きい。
- c. 集約駐輪場建設自体に関しては賛否が分かれるが、駐輪場の分散配置と十分な容量が求められている。
- d. バスロータリー建設の必要性は認知されているが、位置については賛否がやや分かれる。駐輪場問題を別にすれば、理学部前案に対する賛成は、反対よりも多い。
- e. バス・自転車の危険性は概ね認知されているが、駐輪は景観上の問題とは考えられていない。
- f. 自転車入構規制・有料登録制に関して、不正を防ぎきれない・制度運用に失敗する、という意見が多い。
- g. 自転車入構規制・有料登録制を導入した場合、周辺地域への悪影響が懸念される、という意見も多い。
- h. 自転車よりも自動車・バイクを規制するのが先決、という意見が多い。
- i. 自転車レーン(歩行者／自転車分離、特に阪大坂)を求める意見が多い。
- j. 阪大坂入構規制(H18年実施)に対して、現在でも反発が大きく、意義が理解されていない。*
- k. 本アンケートの情報提示、告知の方法、大学の整備姿勢などに対する不信感が非常に大きい。

* 阪大坂では過去にも重大事故があった。歩行者／自転車分離にした場合、自転車の速度が上がって死亡事故等の重大事故が発生することが充分予測される。

3-2-2. 第 24, 25 回学生生活調査 (2018 (平成 30), 2022 (令和 4) 年度)

学生生活委員会ではほぼ 4 年おきに、学部学生および大学院学生の経済状態、生活環境、健康状態、修学状況、課外活動、就職活動等を中心に、学生生活の実態や意識・要望を把握するための調査を継続実施している。第 25 回調査では、特に各種広報で周知を計った上でインターネットにより学部学生 7,406 名、大学院生 3,273 名からの回答を得た。

以下に、キャンパス計画に関連すると考えられる項目を挙げる。

なお過去の第 22 回、23 回の調査結果から、キャンパス計画の課題として残っている項目については前回キャンパスマスタープランの記載内容を引き継ぎつつ、前回の改訂後に実施された第 24 回、25 回からの項目を追記する形で記す。

a. 通学状況

・通学手段

学部学生・大学院生ともに公共交通機関・自転車・徒歩が全体の 9 割を占め、前回の調査よりもしており、自転車の割合が減少しており(第 23 回 49.2% ⇒ 第 25 回 36.8%)、徒歩のみでの通学学生が増えている(第 23 回 10.4% ⇒ 第 25 回 20.9%)。

・通学所要時間

学部学生・大学院生ともに下宿生は多くが 30 分未満であり、自宅生は多くが 30 分以上かかるという結果になり、全体的に前回の調査と変わらない結果である。

・車両所有、使用

第23回の調査と比較すると、運転免許を取得していない学生は減少傾向にある。特に第24回においては運転免許を取得していない割合がかなり増加した。第 25 回では学部学生および修士学生の取得率は少し増加している。

また自由に使用できる自動車・バイクの有無については、保有率が 23 回に比べて少し減少している。

・土日通学

全体的に、土曜日・日曜日の登校回数は減少方向にある。

b. 授業の合間に過ごす場所

学部学生・大学院生は、講義室や研究室等で過ごす人が多く、以前まで利用が高かった学内食堂や図書館の居場所利用が大きく低下している。(学部学生のデータで、学内食堂が【第23回】60.4% ⇒ 【第25回】13.6%、図書館が【第23回】51% ⇒ 【第25回】26.6%)

一方で、「今後居場所として増やしてほしい空間」としては、学部生および大学院生とも喫茶・カフェがトップとなっており、授業時間以外に学生同士議論・打合せしたり、くつろいだりできるスペースに対する要望が多い。

c. 食生活の状況

・学内食堂での待ち時間

食堂全体において平均的な待ち時間は5分程度以下が6割以上を占める。一方で、15分程度、や20分程度と回答している学生もあり、一部の食堂で混雑していることが推察される。学内食堂の好ましくない点として、学部生、大学院生ともに「混雑していること」がトップ(25.4%)で挙げられており、待ち時間に関して不満をもっている学生は多い。

・学内食堂について

福利厚生施設全般に関する不満について、混雑以外の点では、「休日が閉店していること」、「メニューの種類が限られていること」、「営業時間が短いこと」、「食堂が少ないこと」などが挙げられている。

d. キャンパスへの意見(自由記述)

「スチューデント commons のようにグループワークできるスペースがほしい」、「図書館の開館時間を長くしてほしい」、「24時間利用できる施設がほしい」、「整備されていない部分が多い」、「各キャンパス間での格差が激しい」、「文系と理系の設備差がある」、「建物が汚い」などの意見があった。

e. 授業出席状況

80%強が「9割以上出席している」と回答しており、出席率は増加傾向にある。オンラインでの学修環境の整備が進んだこともあり、以前より出席しやすい環境整備が進んでいるとも考えられる。

f. 施設・設備の満足度

・教育・研究用施設・設備

全体として教育用施設・設備等には60%以上の学生が満足している。博士課程前期(修士)の学生においては、80%近くが満足・やや満足と回答している。

g. サークル活動

学内外で何らかのサークル活動をしている学生は60%弱である。文化系と体育系のサークルに加入している学生の割合はほぼ拮抗しているが、23回調査に比べて、体育系サークルに加入している学生の割合が緩やかに増加している。サークルが不満足である理由として「施設が足りない」「施設が自由に使えない」などが挙げられ、23回同様の施設関係の不満が比較的多いこともうかがえるが、25回においては「コロナやオンラインで活動が十分にできない」が66%でトップとなっている。

h. ボランティア活動

ボランティア活動を経験している学生の割合は23回から大きな変化はない。活動内容は「地域社会での奉仕活動」が際だっている。また経験のない学生も半数程度がボランティア活動に関心を持っており、特に女子にその傾向が強い。

i. 研究室について(大学院生のみ。スペース満足度、施設満足度)

全体的におおむね肯定的な評価がなされていた。ただし、研究スペースや施設設備については、理系学生よりも文系学生の方が不満度が高い。

j. 学内連絡バス(利用率、ダイヤ・土日運行、要望)

回答者全体の 30%弱が学内連絡バスを利用しているが、23回よりは学部学生・大学院生共に、5~10%利用が減少している。

土曜日や授業休業期間のスクールバスの運行を希望する学生は多いが、23 回、24 回調査に比べると相当減少している。(学部学生で、第23回68.9% ⇒ 第25回 36.2%)

k. その他要望など

「自転車で校内に入れない所があり不便」、「路面状況が悪い」、「学生食堂の混雑の緩和」、「教室が汚い」、「図書館を 24 時間開館してほしい」、「建物が古い」等がある。

第24回、25回を通してみると、第25回の結果から、コロナ禍の影響が大きい項目があることが浮き彫りになった。特に学生の居場所の使い方が大きく変わっているが、これは図書館や食堂において様々な利用制限がかかったり、場合によっては利用停止・営業時間の短縮など様々な制約があったことも影響していると考えられる。またもう一点、箕面キャンパスの移転が学内連絡バスの利用等に大きな影響を及ぼしていると考えられる。2024 年 3 月の北大阪急行の延伸開業やそれに伴う周辺バス路線の見直しなど、通学・通勤への影響は引き続き注視していく必要がある。

一方でオンラインでのメディア授業の環境が整備され、学内における WiFi の繋がりにくさなどの声もでており、コロナ禍を経て変化した学修環境の要望について今後も対応していく必要がある。

3-2-3. 留学生生活調査（2010（平成 22）年度）

2009（平成 21）年から始動した「留学生 30 万人計画」とその中核施策である「国際化拠点整備事業」の一環として、留学生受入れ体制や留学生サポートの現状を把握し、5 年後に事業成果を評価する前提として、事業開始時の留学生受入れ体制や留学生サポートに関する現状把握を目的に行った調査であり、全留学生に対して 5 割を越える回収率（有効回答数 842）を得ている。

その後の調査は2023年現在行われていないが、今後増加する留学生の生活実態や要望等については、多様な文化への対応を含めたグローバル化へのニーズとして、注視しておく必要がある。

a. 食堂

「満足」および「非常に満足」の割合が、55.6%で「少し不満」、「非常に不満」の割合が、15.4%となっている。

b. 店舗

購買部については、60%以上の留学生が満足と答え、不満に思う留学生は全体の 9%あまり。

書店においては 60%以上の留学生が満足しており、不満は 7%程度である。

購買部、書店ともに満足度が高い。

c. 安全性

… 80%程度の留学生が満足。不満は全体の 2%程度。

d. 案内サイン

… 60%程度の留学生が満足。不満は全体の 10%程度。

e. キャンパス間移動

… 60%以上の留学生が満足。不満は全体の 10%程度。

f. その他自由意見では、下記に対する要望や意見が見られた。

- 1) 留学生宿舎の不足、24 時間使える自習室や一人で集中できるスペースの必要性
- 2) 図書館の利用時間延長・土日利用・英文専門書や参考書の充実・返却期限延長
- 3) ハラール（イスラム教で認められた）メニュー、健康的で（野菜が多い）安いメニュー、食堂営業時間の延長
- 4) コンビニの充実、ファーストフード、営業時間、生協商品の低価格化
- 5) フィットネス、プール、テニスコート等、運動施設の充実と、自由に個人利用できること

3-2-4. キャンパスイメージアンケート（2022（令和4）年度）

キャンパス整備の成果を継続的に把握するために、キャンパスの屋外空間の全体的なイメージ、および近年行われた屋外空間改修のキャンパス環境向上への寄与の程度について、2010（平成22）年度から2年ごとに継続的に調査しており、ホームページのアンケートフォームによって（2010年と2012年はハガキを併用している）、2022（令和4）年度調査では回答数203（豊中114、吹田76、箕面13）を得た。

以下に結果のまとめを示す。

a. キャンパス全体のイメージ

図3.01のとおり、案内標識類（サイン）のわかりやすさや、バリアフリー、美しさ、居心地の良さなど、キャンパス全体についての満足度が得られ、過去2020年度の調査との比較において、吹田と豊中では一般的に低下し、2021年にキャンパス移転した箕面キャンパスにおいてはほとんどの項目で満足度が向上している。

豊中と吹田キャンパスについては2020年との比較では低下しているものの、2018年のデータと比較するとそれほど差がない。2020年の調査がコロナ禍でキャンパス利用が制限された中でほとんどの学生がキャンパスを使っていない状況という特異な環境であったことが影響していると考えられる。

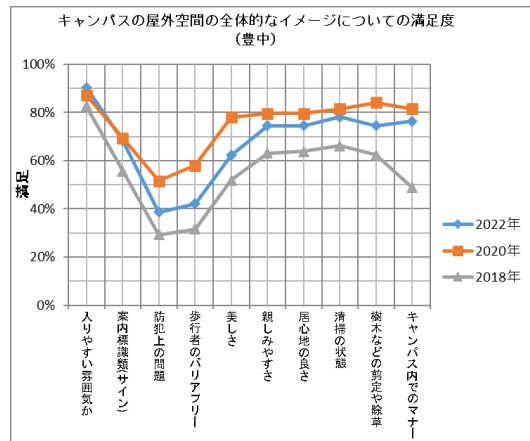


図3.02a 豊中キャンパス

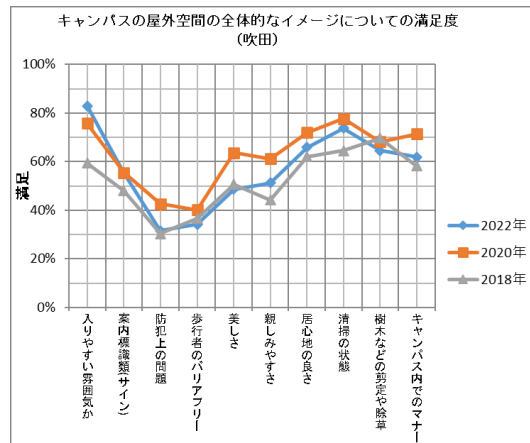
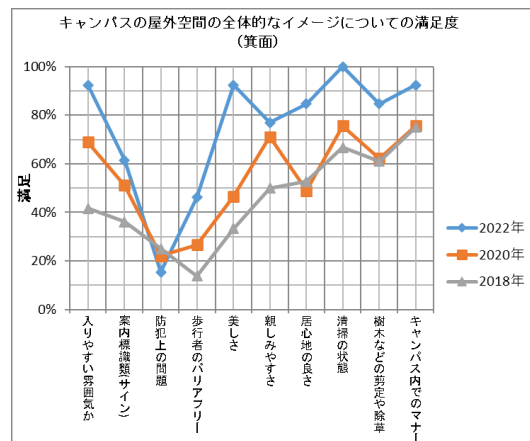


図3.02b 吹田キャンパス



※満足度の算出は下記による。

各項目で-2点～+2点の5段階の評価回答を求めている。-2点は評価が低く、+2点は評価が高い。

満足度(%) = 肯定的意見数 ÷ 全回答者数

肯定的意見とは各項目で、+2 または +1 の回答をした者の合計である。

b. 近年の共用空間改修のキャンパス環境向上への寄与

表 3.01 に示すように、近年の各所整備について整備目的に応じた環境向上（利便性・快適性）と美しさの両面について満足度を問うている。

概ね利便性・快適性、美しさともに肯定的な評価を得ている。

2021 年に移転した箕面キャンパスの整備については、建物一つとしてではなく、キャンパス内のコモンスペース複数について個別に評価を行った。

表 3.01 近年行われた屋外空間整備・改修の、キャンパス環境イメージアンケートの満足度（2022年度調査）

		利便性・快適性・安全性			美しさ			
		回答数	アンケート事項	満足度	加重平均満足点	回答数	満足度	加重平均満足点
吹田	1) 千里門周辺（令和2年整備）	77	通行のしやすさ	69%	0.4	75	69%	0.5
	2) さくら環状通り（令和2年整備）	72	通行のしやすさ	64%	0.5	72	64%	0.5
	3) 本部前バス停屋根改修（令和3年整備）	72	居心地の良さ	59%	0.4	73	59%	0.4
箕面	1) 外国学研究講義棟（令和3年整備）	53	居心地の良さ	87%	0.8	54	87%	0.8
	2) 外国語学図書館（令和3年整備）	52	居心地の良さ	89%	0.8	53	89%	0.8
	3) 屋外広場・3Fピロティスペース（令和3年整備）	57	居心地の良さ	84%	0.6	56	84%	0.7
	4) シンボル広場(学寮と研究講義棟の間の広場)（令和3年整備）	48	居心地の良さ	71%	0.5	48	71%	0.5
	5) 3F・食堂	49	居心地の良さ	76%	0.7	50	76%	0.6
	6) 4F・アクティブラーニングスクエア	42	居心地の良さ	67%	0.5	43	67%	0.5
	7) 5F・学生交流スペース	47	居心地の良さ	74%	0.6	47	74%	0.6
	8) 5F・光と平和の広場	49	居心地の良さ	80%	0.7	50	80%	0.7
	9) 6F・学生交流スペース	47	居心地の良さ	74%	0.6	47	74%	0.6
	平均値	-	-	75%	0.6	-	75%	0.6

※満足度の算出は下記による。

各項目で-2点～+2点の5段階の評価回答を求めている。-2点は評価が低く、+2点は評価が高い。

満足度(%) = 肯定的意見数 ÷ 全回答者数

肯定的意見とは各項目で、+2 または +1 の回答をした者の合計である。

c. 自由記述

◆豊中キャンパス

- t1. コロナ禍以前に比べて落ち着いて自習できるスペースが減った。
- t2. 全学教育推進機構 B 棟 1F のお手洗いがきれいなのは良いが、他より圧倒的にきれいなので人が集まり、休み時間中の利用が集中しすぎている。
- t3. 豊中地区は建て詰まっており、その中を車両が往来するのは好ましくない。なるべく正門の近くに駐車スペースを集約しキャンパス内の安全・安心や景観の向上を図った方が良いと思う。
- t4. ゴミ箱からゴミがあふれた状態で放置しているのがとても気になる。

◆吹田キャンパス

- s1. 自転車シェアリング（レンタサイクル）などがあれば、よかったですと思います。
- s2. 案内表示は分かり易いが、剥がれて汚くなっているのをよく見かける。
- s3. エコレンジャーさんたちが清掃等をしてくれており、きれいに保ってくれていると感じる。
作業中の対応も丁寧かつ安全面にも配慮してくれており感謝しかない。

◆箕面キャンパス

- m1. The spaces are well thought out and the library is very conducive to learning.
- m2. 現代的な建物で、毎日通いたくなります。

- m3. 本学学生でも駐輪場が有料だと使いにくい。
- m4. 新しいが豊中のような自然が欲しい。

3-3. 2015(平成27)年度および2023(令和5)年度の評価・点検

2015(平成27)年度に、策定から10年が経過した大阪大学キャンパスマスタープランを全体的に評価・点検するため、豊中・吹田両キャンパスの各部局の施設関係担当・委員に対してヒアリングを行った。また、今回の改訂に向けて、2023(令和5)年度に豊中・吹田・箕面の3キャンパスの施設関係担当者との意見交換会を実施した。

その意見は下記および表3.02a~bに示すとおり、大きく10の項目に分類することができた(下記では各部局個別あるいは建物の局所的な問題や要望等は割愛している)。今回箕面キャンパスにおいては2021年にキャンパスが移転していること、また意見交換会で特段の意見がなかったことから表には整理していない。2015年度までに上がっていた課題については、移転に伴い多くを解決した。また一部の課題については移転に伴い立地条件や周辺環境が変わってしまったことから現状該当しないものとなっている。現在キャンパス周辺の開発が急ピッチに進んでいることから、通学通勤および学修環境に関して随時意見・要望を聞き改善への検討を進めていく。

1. 広場等の場所性の豊かさ
2. シンボル性やイメージ等
3. 福利施設等
4. 構内交通安全やバリアフリーの問題
5. 防犯対策
6. サインや案内の分かり易さ
7. 建物全般・維持管理
8. 樹木の維持管理等
9. 通学・通勤の利便性(バスの要望等)
10. その他

特に10.その他には、キャンパス全体の計画にかかわる下記のような注目すべき指摘があった。

- A. 長期的(20~30年)観点での、病院を含むキャンパス全体の建替えや再編の計画が必要、また建替計画は、部局別ではなくキャンパス全体で検討が必要であること
- B. 広域の防災拠点の観点を盛り込むこと、および、防災の観点からオープンスペース(駐車場も含めて)の整備と保全が必要
- C. 地域住民コミュニティとの関わりを深めていくこと、および、「地域に生き世界に伸びる」の理念に鑑みて門や遊水池などの(地域資源としての)位置づけを明確にして、地域との関わりを深める必要性
- D. 省エネやサステナビリティに配慮した建物計画の重要性

表3.02a 2015(平成27)年および2023(令和5)年度の点検評価における意見の整理【豊中キャンパス】

分類項目		内容	
1.	広場等の場所性の豊かさ	集える空間、くつろげる空間	<ul style="list-style-type: none"> ・柴原口を広場や公園のような場所にして欲しい ・豊中総合学館で騒音問題があるため、講義室とピロティ等の場所との棲み分けが必要 ・キャンパス内に地域住民と交流が出来る場所が必要 ・学生が集う場所、教育研究等の場所の整備等、全体のバランスの整理が必要
		余裕ある活動空間	
		未利用地有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・大高の森を有効活用すべき
2.	シンボル性やイメージ等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学術博物館をキャンパスと密接に連携したい ・大阪大学会館等を待兼山や中山池の自然と繋ぐイメージのキャンパス計画として欲しい ・博物館をキャンパスの文化的なソフトとしてキャンパスマスタープランに反映して欲しい ・建物の統一感を出してほしい 	
3.	福利施設等	食堂の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・豊中キャンパスの東側に食堂がなく、全体としてもゲストをお招きするレストランがない ・食堂等が混雑しているため、部局の配置も含め、各キャンパスへ分散する等の検討も必要
		その他の福利施設や全般について	
4.	構内交通安全やバリアフリー等	導線の交錯	<ul style="list-style-type: none"> ・車の動線についてキャンパスマスタープランの図を誤解を招かない表現に修正してほしい ・学生会館や学生交流棟の周辺は歩道がないため歩車分離を検討してほしい
		駐輪など、自動車などの問題	
		駐車場や自動車などの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・団体用のバスを受け入れる駐車場がない ・キャンパス内に集約駐車場が必要 ・駐車場が減少しているため、建設時には駐車場を含めた全体の検討が必要
		道路構造や構成、バリアフリーなど	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロータリー整備にあたっては、サイバーメディアセンター豊中教育研究棟横断駐車場の車の通行に配慮してほしい ・浪高庭園の階段の段差が分かりにくい ・阪大坂のウォークアビリティ向上
5.	防犯対策	屋外照明設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ・モノレールからの歩行者通路の外灯整備が必要
		セキュリティシステム	
		その他防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に大学としてどう動くかの具体的な検討が必要
6.	サイン(案内表示)の分かり易さなど	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の記号(キャンパス統一)設置による来学者等の利便性向上が必要 	
7.	建物全般・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・全学教育講義棟C棟の雨漏りがひどい ・全学教育講義棟C棟北側の道は、民家に近く将来的計画が懸念される ・建替え計画は部局個別ではなく豊中キャンパス全体として検討が必要 ・設備改修の予算確保や更新計画の検討が必要 	
8.	樹木の維持管理・保全	<ul style="list-style-type: none"> ・待兼山で樹木の立ち枯れが多く、倒木の危険がある ・樹木で覆われているモニュメントがある ・管理しやすい緑地整備をして欲しい 	
9.	通学・通勤の利便性(バスに対する要望)		
10.	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に豊中キャンパスの各通りの名称について照会があったが、その後連絡がない ・待兼山や阪大坂下駐輪場付近でのカラスによる被害の対応検討が必要 ・言語文化研究科の建物北側では、卒煙ブース外での喫煙者がいる ・朝、阪急石橋駅からの通学路は学生で溢れているため、町ぐるみの整備が必要 	

表3.02b 2015(平成27)年および2023(令和5)年度の点検評価における意見の整理【吹田キャンパス】

分類項目		内容
1.	広場等の場所性の豊かさ	<ul style="list-style-type: none"> 集える空間、くつろげる空間 核物理研究センター周辺の北門や調整池の活用も含めて整備計画を検討して欲しい 工学部生協等の施設を地下化または移転して、吹田キャンパスの中心になる芝生広場を造ってほしい
		<ul style="list-style-type: none"> 余裕ある活動空間
		<ul style="list-style-type: none"> 未利用地有効利用
2.	シンボル性やイメージ等	<ul style="list-style-type: none"> イ号館やロ号館の歴史ある建物を活かしていくことが必要 医学部附属病院はモノレール駅前にあることから、シンボリックな建物として計画したい ランドマークビルは必要 阪大にゆかりのある著名人の銅像を目抜き道路や憩いの場に設置してはどうか
3.	福利施設等	<ul style="list-style-type: none"> 食堂の充実 大学周辺に飲食店が少ない、キャンパス中心部に民間企業を誘致できないか
		<ul style="list-style-type: none"> その他の福利施設や全般について 体育館に空調設備がなく、健康管理に支障をきたしている
4.	構内交通安全やバリアフリー等	<ul style="list-style-type: none"> 導線の交錯 ペDESTリアンを設置してはどうか
		<ul style="list-style-type: none"> 駐輪など、自動車などの問題 小野原門は速度の速い自転車の通行が多く危険である
		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場や自動車などの問題 土地の有効活用や美観の観点から地下駐車場を整備する方が良い 立体駐車場の整備が必要
		<ul style="list-style-type: none"> 道路構造や構成、バリアフリーなど 北門付近の路面整備対策をお願いしたい 学内外で大雨の際に水溜りができる場所がある まきは保育園から電頭センターにかけての幹線道路にハンプを設置してほしい 西門の坂を上がり警備の門を過ぎてから、車両が速度を落とすための工夫が必要
5.	防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> 屋外照明設置要望 セキュリティシステム その他防犯 火災時の避難場所となる周辺駐車場が減少しているため、建物毎に避難場所確保の検討が必要 大規模災害時の備蓄が必要
6.	サイン(案内表示)の分かり易さなど	
7.	建物全般・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 核物理研究センターの下水道完備の整備をお願いしたい キャンパスエッジは周辺地域との関係から緩衝地帯として樹木を増やす方が良い 医学部附属病院の建替えは駐車場を確保し整備する必要がある 日常的な修繕も含めた財源確保の方法も検討して欲しい 大飼池・調整池で「グリーンウォーター化」が起こっているため噴水等で水質改善の必要がある 省エネルギーのためのシステムおよび設備整備計画も必要 キャンパス北側に200名程度が入るセミナー会場の整備をお願いしたい
8.	樹木の維持管理・保全	<ul style="list-style-type: none"> 里山の竹林管理が十分でないため、年間管理計画の作成、予算配分が必要
9.	通学・通勤の利便性(バスに対する要望)	<ul style="list-style-type: none"> グローバルビレッジについて、モビリティマネジメント等で他のキャンパスとの連携を検討しても良い 阪大本部前のバス停を歯学研究所前まで延長してほしい
10.	その他	<ul style="list-style-type: none"> 医学部附属病院は、モノレール下の空地に患者用の福利厚生施設を整備する等の計画検討が必要 現状のキャンパスマスタープランの評価は主観的、今後はより定量的な評価が必要 文部科学省関連の資料に基づきキャンパスマスタープランを改訂すれば問題ない キャンパスマスタープランの目標と現状のプランが一致していない部分がある 産研の裏山と小野原地区を結ぶ散歩道を設置し、地域住民が気軽にキャンパス内を散策できるようにしてほしい 市民が利用し、大学の活動を知れるアウトリーチビルを設置してはどうか キャンパス内循環バスを運行し、上記アウトリーチビルを循環できるようにしてほしい 運河を掘削し、バンテイングで遊べるようにしてほしい 阪急千里線を、北千里→小野原交差点→阪大吹田中央のように延長し、阪大吹田中央はサイバーメディアセンター前に設置、大飼池・遊水池周辺を公園として整備し、さらに憩いの施設およびランドマークビルを設置してはどうか 今回のキャンパスマスタープランの改訂には、社会環境の変化への対応が必要 今後のキャンパスマスタープランには、計画論、デザイン論、事業論、マネジメント論、プロセス論の5つの論点が必要 計画論の新たな検討事項: 立地の再評価と自治体との連携のあり方、定量的検討、長期代替イメージ、断面構成計画、被災の想定 デザイン論の新たな検討事項: 建物デザインをコントロールする手法、中遠景の景観計画 事業論の新たな検討事項: 全学的事業調整の仕組みづくり、コスト・財源・スケジュールの裏付けの明確化、ランニングコストとその財源確保など長期的な視点の導入、企画段階で適切さを評価する視点の導入、BCPに資するキャンパスのあり方、省エネ方針 マネジメント論の新たな検討事項: コンプライアンスの強化と不適切な状態の改善、情報収集と整理の経常業務化とスマート化、キャンパス全体に照らした事業評価の実施、「サポート型の取り組み」部分の充実と現実化方策の提示 プロセス論の新たな検討事項: 設計等を改善する仕組みの導入、デザイン決定プロセス等の明確化、最適なスケジュールの実現 各フレームワークの策定プロセスを可能な限りオープンにしてほしい

3-4. 期待と評価検証のまとめ

前節までの各種の調査や評価・点検結果をもとにしながら、2005（平成17）年以降の施設や屋外の整備などに対する、キャンパスマスタープランの成果や目標達成度を一覧表にまとめた（表 3.03）。

本キャンパスマスタープラン 2023（令和5）年版は、これらを基本として改訂作業を行っている。

直ちに対処することが困難な諸問題については今後の課題として9章にまとめ、今後、継続的に検討していくこととする。

※達成度の記号凡例

- : おおむね目標や期待通りの効果、あるいは主要な課題はクリアした
- △: 部分的に達成した、あるいは主要な課題を残している
- ×: 未着手または効果なし(調査や検討を除いて)
- ◆: キャンパスマスタープランでは目標設定がなかった

表3.03 キャンパスマスタープランが掲げた目標や計画のこれまでの達成度

分類項目	2005(H17)年(豊中・吹田)版 キャンパスマスタープラン 2009(H21)年(箕面)版 キャンパスマスタープラン 2011年度までの達成状況			2012(H24)年(豊中・吹田・全体)版 キャンパスマスタープラン 2009(H21)年(箕面)版 キャンパスマスタープラン 2012~2015年度までの達成状況				
	マスタープランで設定した目標	分類ごと達成度	個別計画達成度	具体的な達成内容	マスタープランで設定した目標	分類ごと達成度	個別計画達成度	具体的な達成内容
1. 広場等の場所性の豊かさ(主に屋外) 集える空間、くつろげる空間 余裕ある活動空間 未利用地の有効利用	LDP 豊中シンボル空間	○	○	中山池周辺整備	LDP 豊中シンボル空間	×	×	
			○	学生交流棟北側広場整備	LDP 待兼山周辺		×	
			○	豊中東口整備	LDP 柴原通り周辺		△	豊中柴原口環境整備
			○	文法経中通り整備	LDP 吹田シンボル空間		×	
			○	大阪学生会館整備	LDP 吹田シンボル空間		×	
	LDP 豊中待兼山・阪大坂周辺整備	△	△	総合学術博物館(修学館)整備	LDP 吹田理工学図書館前OS整備	×	△	理工学図書館前等緑地管理
			△	阪大坂周辺整備	LDP 箕面福利会館周辺バリアフリー		×	
	LDP 吹田シンボル空間	×	×		LDP 箕面北門・新北門周辺計画	×	×	
	LDP 吹田キャンパスライフコア		×		LDP 箕面北側12m道路周辺計画		×	
	LDP 吹田千里門周辺環境整備	×	△	千里門近傍調整池の地下化	LDP 箕面新東門の整備	×	×	
	LDP 吹田理工学図書館前OS整備		△	理工学図書館前等の緑地管理	LDP 箕面研究講義棟東側プロムナード		×	
	LDP 箕面福利会館周辺バリアフリー	×	×		LDP 箕面バス停周辺の整備	△	△	バス停上屋の増設
	LDP 箕面北門・新北門周辺計画		△	箕面キャンパス北門整備 箕面キャンパス彩都口整備				
	LDP 箕面北側12m道路周辺計画	×	×					
LDP 箕面新東門の整備	×							
LDP 箕面研究講義棟東側プロムナード	×	×						
LDP 箕面バス停周辺の整備		△	箕面バス停上屋の増設					
2. シンボル性やイメージ等	デザインガイドライン(DGL)の設定	△		具体的な整備はDGLに基づき計画されている	デザインガイドライン(DGL)の設定	△		具体的な整備はDGLに基づき計画されている
3. 福利施設等	LDP 豊中キャンパスライフコア	△	○	豊中スチューデントcommons	LDP 豊中キャンパスライフコア	△	○	豊中福利会館改修
			○	総合図書館等ラーニングcommons			○	総合図書館等ラーニングcommons
	LDP 吹田キャンパスライフコア	△	○	春日丘ハウス整備	LDP 吹田キャンパスライフコア	△	○	吹田微研食堂・コンビニ
	○	理工学図書館commons		○	吹田サイバーメディアcommons			
LDP 箕面キャンパスライフコア	×	×			○		吹田ボラ通り福利会館・コンビニ	
					LDP 箕面キャンパスライフコア	×	○	「ちかだん」整備
4. 構内交通安全やバリアフリー等	歩行者優先強化	△	△	車輛入構規制	歩行者優先強化	×	×	
			△	文系中通り整備	吹田キャンパスの交通網整理		○	吹田キャンパス各所ハンプ設置
	吹田キャンパスの交通網整理	△	△	吹田東門(医病前)の動線改善		△	△	吹田自転車専用レーン設置試行
	箕面キャンパスのバス環境改善		△	バス停上屋設置				
	箕面キャンパスの新北門整備	×	×			×	○	自転車登録制試行→廃止
	分散駐輪場の設置⇒方針再検討		×	交通マナー教育			○	阪大坂下駐輪場整備
立体駐車場整備⇒方針の再検討	△		車両入構規制 医学部立体駐車場 歯病駐車場改修 吹田共用駐車場整備	(別途「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定)	△		各所道路改修・補修	
(別途「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定)	△		阪大坂下並木等整備 吹田さくら環状通り歩道等整備		△		各所道路補修	
5. 防犯対策	屋外照明設置要望	◆	○	各キャンパス外灯増設		×	○	各キャンパス外灯増設
	セキュリティシステム		×				×	
	その他防犯		×				×	
6. サイン(案内表示)の分かり易さなど	(別途「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定)	△	△	各キャンパスサイン改修整備	(別途「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定)	△	○	各キャンパスサイン改修整備 各キャンパスシンボル型サイン整備
7. 建物全般・維持管理	(別途「維持保全マニュアル」が策定された)	△		マニュアルの運用が開始	(別途「維持保全マニュアル」が策定された)	△		維持保全マニュアルに基づく使用者の点検実施を前提とした老朽化対策予算の要求
8. 樹木の維持管理・保全	(別途「緑のフレームワークプラン」が策定された)	△		管理者への啓発	(別途「緑のフレームワークプラン」が策定された)	△		管理者への啓発
9. 通学・通勤の利便性(バスに対する要望)	◆				◆			
10. その他	「キャンパスアクションプラン」		△	キャンパスアクションプランの一部が効果をあげている。	「キャンパスアクションプラン」		△	キャンパスアクションプランの一部が効果をあげている。特に緑の維持管理。

- : おおむね目標や期待通りの効果、あるいは主要な課題はクリアした
- △: 部分的に達成した、あるいは主要な課題を残している
- ×: 未着手または効果なし(調査や検討を除いて)
- ◆: キャンパスマスタープランでは目標設定がなかった

表3.03 キャンパスマスタープランが掲げた目標や計画のこれまでの達成度

分類項目		2016(H28)年(豊中・吹田)版 キャンパスマスタープラン 2019(H31)年(箕面)版 キャンパスマスタープラン 2016～2023年度までの達成状況		
		マスタープランで設定した目標	個別計画達成度 具体的な達成内容	
1.	広場等の場所性の豊かさ (主に屋外)	集える空間、くつろげる空間	LDP 豊中シンボル空間	○ 中山池周辺整備 ○ 学生交流棟北側広場整備 ○ 豊中東口整備 ○ 文法経中通り整備 ○ 大阪大学会館整備
		余裕ある活動空間	LDP 豊中待兼山・阪大坂周辺整備	△ 総合学術博物館(修学館)整備 △ 阪大坂周辺整備
			LDP 吹田シンボル空間	×
	LDP 吹田キャンパスライフコア		×	
	LDP 吹田千里門周辺環境整備		× △ 千里門入口の芝生化	
	未利用地の有効利用	LDP 吹田理工学図書館前OS整備	△ 理工学図書館前等の緑地管理	
		LDP 箕面福利会館周辺バリアフリー	— キャンパス移転	
		LDP 箕面北門・新北門周辺計画	— キャンパス移転	
		LDP 箕面北側12m道路周辺計画	× — キャンパス移転	
		LDP 箕面新東門の整備	— キャンパス移転	
2.	シンボル性やイメージ等	デザインガイドライン(DGL)の設定	△ 具体的な整備はDGLに基づき計画されている	
		LDP 吹田理工学図書館前OS整備	△ 理工学図書館前等の緑地管理	
3.	福利施設等	食堂の充実	LDP 豊中キャンパスライフコア	△ ○ 豊中スチューデントコモンズ ○ 総合図書館下食堂改修
		その他全般	LDP 吹田キャンパスライフコア	△ ○ 春日丘ハウス整備 ○ 理工学図書館コモンズ
	LDP 箕面キャンパスライフコア		○ ○ キャンパス移転	
4.	構内交通安全やバリアフリー等	動線の交錯	歩行者優先強化	△ 車輛入構規制 △ 文系中通り整備
		駐輪など自転車問題	吹田キャンパスの交通網整理	△ △ 吹田東門(医病前)の動線改善
			箕面キャンパスのバス環境改善	○ キャンパス移転
	駐車場や自動車の問題	分散駐輪場の設置⇒方針再検討	×	交通マナー教育
		道路構造や構成、バリアフリーなど	立休駐車場整備⇒方針の再検討	○ 車両入構規制 医学部立休駐車場 歯病駐車場改修 吹田共用駐車場整備
5.	防犯対策	屋外照明設置要望	◆	○ 各キャンパス外灯増設
		セキュリティシステム	×	
		その他防犯	×	
6.	サイン(案内表示)の分かり易さなど	(別途「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定)	△ △	各キャンパスサイン改修整備
7.	建物全般・維持管理	(別途「維持保全マニュアル」が策定された)	△	マニュアルの運用が開始
8.	樹木の維持管理・保全	(別途「緑のフレームワークプラン」が策定された)	△	管理者への啓発
9.	通学・通勤の利便性(バスに対する要望)	◆		
10.	その他	「キャンパスアクションプラン」	△	キャンパスアクションプランの一部が効果をあげている。

Column 3 世界のキャンパス（3）

Louvain la Neuve

ルーヴァンカトリック大学は、ベルギーの首都ブリュッセルから電車で通勤圏内、オティニー市の郊外にある。元々畑と谷だった場所に、鉄道駅をはじめとする交通インフラ、および人工地盤と一体として築かれた大学である。街には現在 3 万人強が住んでいるが、そのうち学生は 1 万人ほどで、他は大学の構成員ではない一般の住民である。キャンパス全体の規模と築造年は吹田キャンパスと似ているが、一般市民の居住を含めた多様な用途の混在によってキャンパスが構成されていることが特徴である。

キャンパス計画の分野では世界的に有名な大学の一つであって、その全ての土地・建物の管理は（住宅の貸付を含めて）、大学と市が設立した会社によって行なわれている。

我が国の国立大学では、固定資産税の問題や国立大学法人法その他規定等のために、同様のことが出来るわけではないが、今後参考にすべき重要な事例であると考えられる。



図 c3a 人工地盤とその上部の建物の様子(1)



図 c3b 人工地盤とその上部の建物の様子(2)

ヒューマンスケールのまちづくり

人工地盤の上に街が形成され、交通インフラについては駐車場、道路、鉄道等が地下に設置されており、地上部はヒューマンスケールの考え方が徹底されている。街の中心まで 10 分で歩いて行ける距離に開発を制限し、歩車分離をしながら、コンパクトでにぎわいのある街を形成している。

土地建物の活用

地上部の建物のほとんどには 1 階に商業施設が入り、2 階以上が講義室、学生寮や、学外の市民が居住する住宅となっていて、大学、商店、住居等が完全に混在した状況を呈している。

これらによって街のにぎわいが形成される上に、大学は不動産収入を得る。この資金を歩道等のメンテナンス費用等に活用し、うまく経済を循環させながら街と大学の魅力を向上させ続けている。



図 c3c 街の中心部の様子
（ほとんどの建物の 1F には商業施設が入っている）